

大阪・関西万博2025における 内陸アジアJICA同窓会 国際フォーラム

日本と内陸アジア協力の架け橋 ～日本の協力成果と音楽演奏・パフォーマンス～

場所： フェスティバル・ステーション、大阪・関西万博2025
開催日： 2025年5月30日（金）
時間： 10:30 – 18:30



大阪・関西万博2025で迎える、記念すべき瞬間へようこそ！

2025年5月30日、日本の中心・大阪に、内陸アジア（中央アジア、コーカサス、モンゴル）各地からチェンジメーカー、リーダー、イノベーターたちが集結します。

この国際フォーラムは単なるイベントではありません。日本が築いてきた国際協力の歩みと、JICAの研修員による実践的な成果とを祝う場です。

日本と日本の皆さまへの感謝を胸に、私たちはひとつの舞台に集い、知識共創がいかにイノベーションを生み、リーダーを育て、コミュニティを変えているのかを発信します。

JICAのビジョン「信頼で世界をつなぐ」に導かれて

この集まりは、JICAの主要なプログラムにインスパイアされたものです：

- **知識共創プログラム（KCCP – Knowledge Co-Creation Program）**
国境を越えて実践的な知識を共有し、技術力と人材育成を促進する起点
- **長期研修プログラム（LTTP – Long-Term Training Program）**
日本での実践的な研修や学びを通じて、未来のリーダーを育てる取り組み

JICA 同窓会（JAA）

- 日本で培った専門知識を活かし、持続可能な地域発展を実現する、帰国研修員たちの活発なネットワーク

なぜ参加すべきか？

意義ある繋がりを築こう

政策立案者、産業界のイノベーター、そして真の変化を起こしているJICA研修員たちと出会えます。

成果を体感しよう

カイゼンやリーン、ICT、防災といった日本の手法が、社会をいかに変革しているかを目の当たりにしましょう。

文化の力に心を動かされよう

国境を越えた活気に満ちた音楽やパフォーマンスを通して、多様性の美しさを体感しましょう。

未来への章をともに創ろう

ビジネス、テクノロジー、教育、外交など、未来の国際協力の可能性をともに探りましょう。

フォーラムの5つの重要テーマ

1. イノベーションと技術移転

日本の知見が、地域のインフラ、ITシステム、都市開発にどのように活用されているかを探ります。

2. 持続可能な開発とスマートソリューション

防災、エネルギー、気候変動への適応、都市計画などにおける地域発のベストプラクティスを共有します。

3. 起業家精神と民間セクターの成長

「ものづくり」や「カイゼン」など、日本の価値観に根ざしながら、地域ごとの現実に即し応用した成功事例を紹介します。

4. 人材育成と生涯学習

メンタリングやデジタルリテラシー、専門能力の強化を通じた、より強固な制度づくりに目を向けます。

5. 文化を通じた友情

人と人の繋がりは国際協力の基盤です。このフォーラムは、人と人との対話による草の根レベルの外交を称えます。

プログラム

時間	内容
10:30-11:00	受付・パフォーマンス
11:00-11:25	開会式
11:25-12:10	タジキスタンステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
12:10-12:55	カザフスタンステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
12:55-13:55	キルギス共和国ステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
13:55-14:30	ウズベキスタンステージ（パフォーマンス）
14:30-15:25	モンゴルステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
15:25-16:20	アゼルバイジャンステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
16:20-17:15	ジョージアステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
17:15-18:10	アルメニアステージ（国の概要、パフォーマンス、講演、クイズ）
18:10-18:30	閉会式

ともに描く未来のビジョン

これは単なるフォーラムではなく、持続的なパートナーシップを築くための舞台です。内陸アジア地域におけるJICA研修員同窓会（JAA）ネットワークは、日本の開発理念と調和しながら、ソリューションを共に創造し、次世代を育成し、持続可能な成長を目指し、日々取り組んでいます。

日本の国際協力の歩みをともに祝い、研修員たちの成果をともに称え、未来への協力の道をともに切り拓きましょう。

ひとつのビジョンを、あなたとともに。
大阪でお会いしましょう。

芸術文化パフォーマンス

～内陸アジアの響き！ 伝統楽器演奏と民族舞踊の祭典～

普段なかなか触れる機会の少ない、広大な内陸アジアの豊かで奥深い芸術文化の世界を、各国の伝統楽器演奏や民族舞踊を通じて体感ください。パフォーマンスは、各国のステージにてトークセッションに織り交ぜ行われます。

タジキスタン

ちゃるばーさ

弦楽器ラバブ奏者の佐藤恵圭一と、ダリー語とパシュトー語で歌うやぎちさとにより、2007年に結成。各地でのコンサートに加え、カルザイ元大統領来日時のレセプションや、中村哲医師の追悼集会での演奏など、アフガニスタン音楽を中心に、タジキスタンなど中央アジア文化の紹介に努めている。

今回のステージでは、ドゥタール奏者の駒崎万集も迎え、より豊かな響きをお届けする。



※ダリー語とタジク語は殆ど同じ言語であり古くより同じ文化圏であったことから、アフガニスタンの国民的歌手の歌がタジキスタンでもヒットしたりしている。

カザフスタン

イナラ・セリクパエヴァ

ドンブラ奏者。カザフスタン共和国首都アスタナ市出身。同市の国立民族楽器オーケストラでドンブラ奏者として10年以上にわたり活躍。同国を訪問した国賓の歓迎式典などに多数参加。



高橋直己

2002年より中央アジアへ渡り、伝統音楽を学ぶ。2006年には同国にてプロクラス歌手コンクールにて第一堰入賞を果たす。ドンブラによる伝統歌謡弾き語りを主に、広くカザフ音楽の紹介に努めている。

キルギス

カリマン・ウメトバエヴァ

キルギスのビシュケク出身。三弦楽器のコムズ、金属口琴（テミルコムズ）、木製口琴（ジュガーチコムズ）などの伝統楽器の演奏家。キルギス国立音楽大学で民族楽器学科を卒業。2007年に来日し東京芸術大学大学院入学。2014年博士号取得。現在は東京音楽大学附属民族音楽研究所のコムズ講座担当。個人レッスン、演奏会を通じてキルギス音楽の普及活動を行っている。

JICA海外協力隊OB/OG等

今回のステージでは、キルギスにて現地の音楽に魅せられコムズをはじめとする民族楽器を演奏するようになったJICA海外協力隊OB/OGや、JICAスタッフ、キルギス日本センターのインターン卒業生たちも、この舞台のために集まり、共に演奏します。



ウズベキスタン



駒崎万集

ドゥタール奏者。2015年JICAボランティアの音楽教師としてウズベキスタンで活動。現地で民族楽器ドゥタールに魅了され習得し、ウズベキスタン、タジキスタンの美しい音楽を現地の言葉で弾き語る。これまでに数々の国際音楽祭での入賞を果たしている他2025年一月よりウズベキスタン共和国文化大使に任命されるなど、中央アジアと日本の架け橋として精力的に演奏活動を繰り広げている。

JICA海外協力隊OB/OG等

今回のステージでは、かつてJICA海外協力隊員や留学生としてウズベキスタンで生活し、現地で民族楽器ドゥタールを習い演奏するようになったメンバーも参加します。

モンゴル

フルハシユミコ & 竹内武

馬頭琴奏者 & シンガーソングライター。作曲家。馬頭琴やオルティンドー（モンゴルの長い唄・歌唱）のモンゴル伝統音楽と自身のオリジナル曲を演奏し、歌う。第4回ジャンツアンノロブ日本馬頭琴コンクール1位。モンゴル国馬頭琴プロ作曲コンクールに作曲作品が入選し出版される。モンゴル国にて演奏・指導認定馬頭琴上級試験に合格。海外演奏、受賞、モンゴル国TV出演多数。ベーススト竹内武の演奏する大馬頭琴とともに、モンゴルの伝統曲を、大切に演奏している。



JICA海外協力隊等

今回のステージでは、JICA海外協力隊員としてモンゴルで生活し、現地で民族楽器馬頭琴を習い演奏するようになったメンバーも演奏に参加します。

アゼルバイジャン



大平清

トルコのイスタンブールで伝統楽器サズを学んでいた折にアゼルバイジャンの楽曲も数多く学ぶ。またアゼルバイジャン出身のピアニスト、サファロヴァ.グルナラ氏にアゼルバイジャン民謡を学ぶ。その後バクーにて国立アゼルバイジャン文化芸術大学のタール教師であるルスラン.ザリバリエフ氏に伝統的なムガムや民謡を師事。アゼルバイジャンの音楽家がプロデュースするTURKCAN〜トルコ系民族兄弟の絆2019にも奏者として参加。

ジョージア



ノグチマサフミ

劇団四季出身の舞台俳優。「ライオンキング」「アラジン」を始めとし多数のミュージカルに出演。劇団四季を退団後ジョージアへ渡り、現地の伝統舞踊【ジョージアンダンス】の舞台に立った後、6年間現地の民族舞踊団にて活動。現在はジョージアンダンスの日本人第一人者として、自身の公演やミュージカル、また、宝塚歌劇団星組公演『ディミトリ〜曙光に散る、紫の花〜』のジョージアンダンスの振付を担当するなど、幅広く活動中。そんなノグチマサフミ率いるジョージアンダンスチーム【アンサンブル・イアポネレビ】によるパフォーマンスを行います。

ジョージア民族舞踊『ジョージアンダンス』とは…

南コーカサス地方、黒海とカスピ海に挟まれた東欧の国、ジョージア。ジョージアの民の精神を余すことなく表現した民族舞踊、それがジョージアンダンスです。ジョージア国内の各地方の民族の特徴や、結婚式などの様式を踊りにしたステージパフォーマンスです。

アルメニア



鈴木遣徒（ドウドックJAPAN）

高校時代に留学先のアルメニアでドウドック奏者と出会い、本国で最も権威のある伝統流派で修行する。在アルメニア日本大使館や、アルメニアの音楽祭などで演奏。日本国内にて、2020年にドウドックを専門とする団体「ドウドックJAPAN」を設立。ドウドックJAPANの演奏動画「アルメニアンダンス」が国内で話題を集める。ドウドックJAPANの代表的な奏者として、今回の演奏に臨む。

ドウドックとは…

ドウドックは「世界一悲しい音色」といわれる管楽器です。シンプルな構造、その手軽さからは想像できない深い音色が特徴的です。

近年、映画音楽やクラシック、ポップスでも使用され、伝統楽器でありながら新たな魅力が再発見されています。

2008年には、UNESCOの世界無形文化遺産にも"ドウドック音楽"が登録され、その独自の音楽性が世界的にも認められました。